

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動回復看護論		BNNSS2L33	30801	2前	1(30)	必修
担当教員	豊田 久美子	実務歴	有	看護師として病院/診療所に8年勤務		
担当教員	井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院/診療所に16年勤務		
担当教員	田口 豊恵	実務歴	有	看護師として病院に13年勤務		
概要	食事・排泄・清潔・整容・歩行などの生活行動を再獲得するために必要な知識と援助について学習する。また、回復期における看護の役割を考察する。					
学修目標	1)生活行動のメカニズムを説明できる。 2)生活行動の評価方法を説明できる。 3)障害が日常生活に及ぼす影響を説明できる。 4)生活行動の再獲得に向けた援助をイメージできる。					
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	○
回	学修内容		予習・復習内容			
1	オリエンテーション、リハビリテーション看護とは					
2	リハビリテーション看護を必要とする人①		②P1-43を講義前後に読んでおくこと			
3	リハビリテーション看護を必要とする人②					
4	障害のある人のQOL向上を目指した施策		②P47-67を講義前後に読んでおくこと			
5	リハビリテーション看護の独自性① (基本理論)		②P123-136を講義前後に読んでおくこと			
6	リハビリテーション看護の基本的な方法 (アセスメント評価ツール)		②P146-158を講義前後に読んでおくこと			
7	リハビリテーション医療とチームアプローチ① (分野と特徴)		②P69-111を講義前後に読んでおくこと			
8	リハビリテーション医療とチームアプローチ② (生活行動の再獲得のための訓練)					
9	生活行動の再獲得が必要な人の看護①		前時間に指示する			
10	生活行動の再獲得が必要な人の看護②		前時間に指示する			
11	リハビリテーションの看護の独自性② (当事者のとらえ方の援助)		②P136-140を講義前後に読んでおくこと			
12	生活行動の再獲得が必要な人の看護③		前時間に指示する			
13	GW①					
14	GW②		PPT作成、発表準備			
15	まとめ					
使用テキスト	①小松浩子, 他 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論』 2018 医学書院 ②落合芙美子 『新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護』 2015メヂカルフレンド社					
参考図書	適宜提示する。					
成績評価基準	筆記試験100%					